

ブレインバンクに献体をご了承頂いたご家族皆様へ
(研究に関する情報)

当院ならびに関連施設では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、研究への協力を希望されない場合は、下記に記載されている研究の担当者までお知らせください。なお、研究への協力を希望されない場合は、いつでも拒否ができ、そのために診療上で不利益を被ることはありません。

研究課題名	ヒト死後固定脳および凍結脳のオートラジオグラフィーならびに組織化学的・生化学的手法を用いた、神経変性型認知症の分子メカニズムを明らかにするための分子マーカーの開発と評価 (福祉村病院倫理委員会承認番号#416)
当院の研究責任者	福祉村病院長寿医学研究所 赤津 裕泰(名古屋市立大学 教授 (診療担当))
他の研究機関および各施設の研究責任者	・量子科学技術研究開発機構放射線医学総合研究所脳機能イメージング研究部 佐原成彦、樋口真人、工藤健大、小野麻衣子 ・大日本住友製薬株式会社リサーチディビジョン薬理研究ユニット第2グループ 石川泰三
本研究の目的	ヒト死後固定脳および凍結脳のオートラジオグラフィーならびに組織化学的・生化学的手法を用いた、神経変性型認知症の分子メカニズムを明らかにするための分子マーカーの開発と評価。
対象者該当期間	福祉村ブレインバンクに保管されている全症例。
研究の方法	・オートラジオグラフィー ヒトの死後固定脳および凍結脳の切片を作成し、分子マーカーの候補となる放射性標識薬剤を用いたオートラジオグラフィーにより、薬剤の結合部位の量と分布を解析する。 ・病理組織化学検査 ヒトの死後固定能および凍結脳の切片を作成し、組織化学的もしくは抗体による免疫組織化学を用いて、アミロイド、細胞内タンパク質凝集体(タウ病変など)、活性化グリア細胞関連物質、神経受容体など発症分子機構に関与する分子がいかなる細胞のどの部位に局在するかを詳細に検討する。 ・生化学検査 ヒトの死後凍結脳を組織破壊し、含まれるタンパク質ならびにペプチドの量や可溶性の変化、ならびに切断・修飾の状態を ELISA 法もしくはウェスタンブロット法で解析する。
個人情報の取扱い	長寿医学研究所個人情報管理者によって適切に管理される。
お問い合わせ先	名古屋市立大学大学院 医学研究科 地域医療教育学(秘書宛) 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1 TEL 052-853-8527 (内線 8527)

備考	
----	--